



かさおか



ご入学おめでとう

笠岡市立笠岡小学校

《校訓》「敬いあう」「助け合う」「励みあう」

☆校長 守分 久人 先生 ☆教頭 川上 和子 先生

4月9日に44名の笠小っ子が入学しました。みなさんよろしくお願ひします。

☆1組担任 藤井 幸子 先生

☆2組担任 松島 史奈 先生

☆みのり2 花野 泰造 先生



笠岡市立笠岡西中学校

《校訓》「聡明」「誠実」「忍耐」



☆校長 木村 茂徳 先生

☆教頭 鳥岡 純三 先生

☆1A担任 守屋 秀一 先生

☆1B担任 平本 陽子 先生

4月10日に体育館で入学式が行われ、新1年生80名(男子44名・女子36名)が中学校生活の第一歩を踏み出しました。勉強や部活に、しっかり頑張ってください。

5月の 行事予定



- 5月9日(水)18:30～
30年第5回総務部会を開催予定
- 5月23日(水)14:00～
30年第3回役員会を開催予定
- 6月10日(日)9時30分～
30年度総会を開催予定

『笠岡地区まちづくり協議会』

事務所: 笠岡市笠岡2627番地

電話: 63-5949

Fax: 75-0101

E-mail: zukuri2@mx1.kcv.ne.jp

開館日: 月・水・金曜日の

14時～17時まで

新1年生44名を迎えて新学期が始まりました。1・2・3年生が2クラス、4・5・6年生が1クラス編成です。地域の皆様、どうか子ども達の成長を温かく見守ってください。

★30年度の地区別・学年別児童数(30.4.1現在)

学年	地区名															計
	大伏磯越	本町	住吉	正寿場	仁王堂	浜田	宮地	西	西	西	川	川	殿	殿	追	
1年生	2	3	3	0	2	2	1	6	2	4	5	7	1	4	2	44
2年生	3	5	0	3	1	2	2	3	1	11	1	4	1	8	2	47
3年生	3	4	1	1	1	3	1	3	1	3	1	6	1	6	3	38
4年生	1	5	1	0	0	1	2	3	0	3	1	10	0	5	2	34
5年生	3	3	0	1	0	4	2	0	0	0	0	15	2	7	2	39
6年生	2	1	2	0	2	0	0	1	0	7	0	10	2	1	1	29
計	14	21	7	5	6	12	8	16	4	28	8	52	7	31	12	231

★防災の知識 その⑫ わが家の防火対策「コンロ」

台所での火災原因で最も多いのがコンロです。

電話や来客、掃除洗濯、テレビや買い物など、調理中に台所を離れるときには必ずコンロの火を消してから離れてください。



《 家族を守る 防火のルール 》 チェック☑

- コンロの上に、ふきんなどを干さない。 ☐
- コンロのまわりに、燃えやすい物は置かない。 ☐
- コンロの使用中は、絶対にそばを離れない。 ☐
- 古くなったガスホースは使わない。 ☐
- コンロは壁から離して置く。 ☐
- 天ぷら油の凝固剤を使うときは、そばを離れない。 ☐
- 換気扇や壁などは、こまめに掃除する。 ☐

桜の花もいつの間にか散って、ツバメが飛び交う季節になりました。
先月号に続いて、かさおか自慢・子ども新聞 第22号・第23号を紹介させていただきます。

編集後記

I・M

地域の活動紹介 その①

ギャラリーコンサート

5月13日(日)出演予定
懐かしの歌謡曲
&ベンチャーズバンド
のんべーず

シーサイドモール2階の“ふるさと交流館”で、定期的にコンサートの催し物があります。



主催は笠岡百景でお馴染みの三笠博通さん。地域の活性化を願って、去る4月8日には第45回目のコンサートが開かれました。

次回は5月13日(日)午後1時30分から3時の予定。入場は無料、是非どうぞ!

かさおか自慢 子ども新聞

じまん

しんぶん

区り会会
地く
岡づ
笠ち
協議
文化

まんがになった いも代官

みなさんがよく知っている徳川家康がいたこの話です。江戸にぜい金を集めて人々のためにじょうずに使う係をしていた井戸平左衛門という人がいました。やさしくて責任感が強く、命を大切にする人でした。

江戸から石見の国(大森)へ

石見の国では、銀の取れ高が急へつたために、江戸から平左衛門が新しい代官に選ばれました。六十才の高齢でしたが思い切つて引き受けました。家族は反対したのに遠い石見に行きました。責任感の強い人です。



威徳寺にある絵

笠岡から山へ入つて井原、福山を通つて石見の大森代官所へ着きました。通り道の田畑はどこも作物も米もなくてありました。笠岡やまわりのむらでもイネや野さいの育ちが悪くて



まんが いも代官伝

笠岡いも代官のたん生

平左衛門は、天気の良い日が続くと作物の育ちが悪くてくらしがこまるのでどうしようかと考えていました。

(四年 津田 歩)

平左衛門は、なくなった父を思い出す会を榮泉寺で開きました。鹿児島から来た人から、「鹿児島には、荒れた土地で育つあまい食べ物がある」と聞きました。平左衛門は、江戸のえらい人にたのんでなかよしのお坊さんの位を上げてもらいました。高い位のお坊さんがいっしょだと、荷物調べがなくて、タネイモを持ち出すことができるからです。平左衛門は、役人とお坊さんを鹿児島へ行かせました。そして、こつそり六十キログラムのサツマイモのタネイモを持ち帰りました。農家の人々にたのんで、うえてもらいました。

人々は、みんな大変喜びました。

(四年 辻野春菜)

イナゴの大群

悪いことはばかりが続きます。今度はイナゴの群れがおそつてきて、米も野菜も全めつてしまいました。平左衛門は、急いで大森と笠岡の代官所にある米蔵を



イナゴが田畑をあらす

江戸のゆるしもしなしに開けて、人々

に米を配りました。取つておいたサツマイモもいっしょに配つたおかげで一人も死にませんでした。ところが、江戸のゆるしを待たないで米蔵を開けたことをどうするかきまらるまで笠岡代官所へ行つて待つようになされました。

(四年 津田 歩)

力がつきた いも代官



なくなった場所
をみてまわり、こまつている人々に食べ物わけてあ

げました。しばらくして、大森代官所のつかれが出て病気で亡くなりました。米蔵の責任をとってはらを切つたという言い伝えもあります。



代官の墓まいり

講堂の前に「井戸代官が亡くなつた場所」とほつた石があります。

お墓は威徳寺の山門を入つてすぐの右手にあります。平左衛門は責任感の強い人だと和尚さんが教えてくれました。

(四年 辻野春菜)

かさおか自慢 子ども新聞

じまん

しんぶん

区 地 区
会 会 会
部 部 部
新 新 新
聞 聞 聞
部 部 部

カブトガニの父

にしいひろゆき

「西井弘之 先生」

カブトガニの父とよばれた西井先生は、カブトガニについてだれよりも熱心に研究し、保護活動にも多くの業績を残された人である。

カブトガニへのあふれる愛

笠岡市のカブトガニ繁殖地が、国の天然記念物の指定を受けたのは、昭和三年（一九二八年）三月二十四日のことで、およそ九十年も前のことだ。

西井先生とカブトガニの出会いが次の出来事からのようだ。

ある日のこと患者さんの家に行った帰り道のことだった。

海岸に「カブトガニや卵をとってはいけない」と書いた看板があるのに、砂浜に



研究室の西井先生

死んだカブトガニがゴロゴロころがっているのを見た。「これはどうしたことか」と思っ、さっそく学校や役場へ行ってたずねたが、だれも教えてくれなかった。そこで、西井先生は仕事をしながらカブトガニにくわしい金浦漁業組合長の松成鶴吉さんに教えてもらうことにした。



松成鶴吉組合長さん

ある日のこと、組合長が生浜というところへ連れて行ってくれた。海辺の砂をほるとコマつぶほどのすきとおった卵の中でクルリンクルリンと後ろまわりをしているカブトガニの赤ちゃんを見ておどろいた。

お医者さんとして命の大切さを一番よく知っている西井先生は「二億年前の昔から生き続けているこの小さな命を守らなければ」と強く心に思った。昭和十年のことだった。それから、カブトガニの調査・研究をはじめた。

(六年 田中希莉子)

保護活動へのエネルギー

エネルギー

昭和二十一年に伏越の海岸や富岡の海をうめ立てて陸地にする工事がはじまった。(今は一十一番町の町になっている)

西井先生は砂浜にたくさんのカブトガニが死んでいるのを見てかなしくなった。「カブトガニを自然のまま残したい」と思う先生の気持ちはますます強くなった。

先生の活動が始まった。昭和四十五年「笠岡市カブトガニを守る会」をつくり、カブトガニが卵を産みやすいように、みんなで砂浜のそうじをはじめた。また、海をきれいにするために下水道をつくることを市役所におねがひした。さらに、カブトガニの生態調査と人の手で育てる人工飼育の研究に取り



卵しらべ

組み、昭和五十年に「笠岡市立カブトガニ保護センター」を作ることになった。ところが、卵をかえしてどのくらいまで大きくなったところに海に放すと元気に育つか、まったくわかっていなかった。放流するカブトガニは、十円玉くらいに育てるのに二、三年、大きなカブトガニとなると五年かかることもわかった。やがて、西井先生の努力が実って幼生の放流が実現した。



オス・上 と メス・下

平成七年には人工飼育による放流が本格的にはじまり、今では市内外から大勢参加している。こうして西井先生のカブトガニ保護活動へのエネルギーは、多くの後つぎを生んだ。今回話をしてくださった惣路館長さんもその一人である。



保護活動のなかま

カブトガニは、「生きている化石」と呼ばれ、今では大事に保護されて笠岡の海で生きている。

(六年 岡本ゆあら)

けん血する

カブトガニ

西井先生は、カブトガニの血液から人間の病気を調べる検査薬が作られ、人びとが助かりだすと、「カブトガニけん血方式」を発表した。

日本のカブトガニは、数が少ないため、アメリカのカブトガニをつかうことになった。人間と同じように、カブトガニの体の中から少しだけ血液をもらって、観察池で休ませた後、ふたたび海に返すという方式である。

(六年 田中希莉子)